

# いわき農林水産ニュース

(ふくしまからはじめよう。「食」と「ふるさと」新生運動ニュース)



2月号 発行 平成26年 2月 26日

## 〈東日本大震災関連〉



### いわき地方の農林畜産物 モニタリング検査結果

福島県が行ったいわき地方の1月の農林畜産物の放射性セシウムモニタリング検査結果をお知らせします。

(表1) 農林畜産物の検査結果 (1月末現在)

放射性セシウムが検出されなかった品目と検体数 (表2)	放射性セシウムが検出された品目と検体数		計
	基準値内で検出された品目と検体数 (表3)	基準値を超過した品目と検体数	
7品目 26検体	2品目 6検体	0品目 0検体	9品目 32検体

検査した9品目32検体のうち、7品目26検体は、検査機器の検出限界値以下でした。品目としては、菌床なめこ(施設)、菌床しいたけ(施設)、コマツナ、コマツナ(施設)、豚肉、牛肉、原乳の検体すべてにおいて検出が認められませんでした。

(表2) 1点も放射性セシウムが検出されなかった品目と検体数

菌床なめこ(施設) 1	菌床しいたけ(施設) 2	コマツナ 1	コマツナ(施設) 2	豚肉 1	牛肉 15	原乳 4
-------------	--------------	--------	------------	------	-------	------

また、1月のモニタリング検査では、いわき地方において出荷が制限されているユズについて5検体を検査し、基準値を超過した検体はありませんでした。

(表3) 基準値内で検出された品目の総検体数

	ユズ	大豆	計
総検体数	5	1	6
内訳			
基準値内(最大値)	5(50.6)	1(5.9)	6
検出限界値以下	0	0	0

[( )内単位:ベクレル/kg]

なお、出荷が制限されているいわき市産のユズについては、広域的に栽培されていることから、一般的な「緊急時モニタリング検査」と並行して「解除可否確認検査」を実施しています。

1月に「解除可否確認検査」を行った結果、引き続きユズの出荷制限は継続されます。

1月31日現在、いわき地方産の農林畜産物で出荷が制限されているのは、表4のとおりです。

(表4) 出荷制限及び出荷自粛品目 (1月末現在)

制限、自粛	区分	品目
出荷制限	野菜・根菜・芋類	無
	果物	ユズ
	穀類	クリ
	山菜	たけのこ、ぜんまい、たらめ(野生のものに限る。)、わらび、こしあぶら
	きのこ	原木なめこ(露地)、野生きのこ
	畜産物	無
出荷自粛	山菜	さんしょう(野生のものに限る。)

また、昨年に引き続き平成25年産の米についても全袋検査を実施しており、1月末までの検査点数は、547,526点で基準値を超過したものはありません。このうち、99.96%の547,297点、297点が測定機器の測定下限値未満となっています。

(表5) 玄米(平成25年産)検査状況(1月末現在)

	測定下限値未満(<25)	25<	51<	76<	100超	計
検査点数(点)	547,297	226	2	1	-	547,526
割合(%)	99.96	0.04	0.00	0.00	-	100.00

(列単位:ベクレル/kg)

調査結果は、福島県のホームページ「ふくしま新発売。」の農林水産物モニタリング情報、平成24・25年産米については、「ふくしまの恵み安全対策協議会」で簡単に検索できますので、結果をご確認ください。

## 〈一般情報〉



### 園児にいちごをプレゼント JAいわき市いちご祭

1月21日(火)、JAいわき市と同JAいちご部会が主催する「いちご祭」がいわき市平の神谷保育園で開催されました。

「いちご祭」は、子供たちに「採れたての“いわきいちご”をたくさん食べて欲しい」という生産者の思いから始まった、“いわきいちご”のブランド確立と消費拡大を図る取り組みです。

園児たちは、お皿いっぱい真っ赤に色づいた大粒の“いわきいちご”を「おいしい!」、「甘いね!」とほおばり、あっという間に皿を空っぽにする園児もいるなど、大好評でした。

また、いわき市の農産物マスコットキャラクター「アグリン 5(ファイブ)」の「さる1号」も参加し、園児たちと交流も図りました。

皆様も、じっくり時間をかけて完熟したおいしい“いわきいちご”をぜひ味わってください。



(いちごを受け取る園児たち)



(園児に大人気のさる1号)



## ジェラート開発 第3回クラスター分科会開催

1月23日(木)、県いわき合同庁舎で「平成25年度第3回クラスター分科会」を開催しました。

いわきの農林水産物を活かした“いわきならではの”の商品を開発することにより、いわきの特産品の開発とビジネスモデルをつくることを目的とし、昨年度より開催しています。

第3回分科会には、市内の農林漁業者や商工業者等合わせて17名が参加しました。

第1回・第2回の分科会を通して改良・開発を進めてきた、梨・日本酒・ネギの3種類のジェラートについて、平成25年10月5日~6日の2日間、福島競馬場で開催された「ごちそうふくしま満喫フェア2013」で試食モニター調査を実施し、今回は、その調査結果をもとに、さらに改良したジェラートの試食会を行い、商品の改善点、今後の商品化に向けた取り組みなどについて協議しました。

なお、今回用意したジェラートは、Hagiフランス料理店の萩春朋シェフに試作していただきました。



(ジェラートを試作した萩シェフ)



## 木製ベンチの贈呈式 市内の高校生と初タッグ

1月24日(金)、いわき市植田町にある社会福祉法人ハートフルなこそが運営する「グループホームわいの家」において、木製ベンチの贈呈式を行いました。

今回贈呈した木製ベンチは、公共施設等において県産材製品を利用・展示し、木の温もりと安らぎのある空間を創出し、県産材利用の普及啓発を図ることを目的とした新「ほっと」スペース創出事業(森林環境基金事業)において製作したものです。

当管内では、初めて高校生と連携して事業を実施したもので、いわき農林事務所が材料となる県産スギ製材品の提供を行い、県立勿来工業高校建築科3年生の5名がベンチのデザインから製作までを行いました。

贈呈式では、いわき農林事務所より事業の目的や内容を説明した後、生徒を代表して川辺佑哉さんが贈る言葉を述べ、社会福祉法人の佐久間一枝理事長からは、心を込めて製作した生徒たちに「大切に利用していきたい」とお礼の言葉が述べられました。

ベンチに座った施設利用者の笑顔に、製作した生徒たちの喜びもひとしおでした。



(作成したベンチに座って)



(ベンチに座った感想は?)



### 農業経営のステップアップ 経営セミナーを実施

いわき農林事務所では、木幡会計事務所の木幡仁一税理士を講師にお迎えして、1月24日(金)、2月3日(月)、2月10日(月)の3回にわたり、経営セミナーを以下のとおりに開催しました。

第1回 認定農業者を対象に、平成24年からの税制改正、確定申告の決算書の見方、経営分析について

第2回 認定農業者、法人志向農家等を対象に、法人設立、法人の資金繰りと資金の運用方法、経営分析について

第3回 認定農業者、関係機関・団体職員等を対象に、法人志向農家を支援するために必要な税制改正や法人設立に関する基礎知識について

参加者の皆様は、木幡先生の講義に熱心に聴き入り、セミナー終了後も積極的に自身の経営について相談されていました。



(木幡先生の講義を熱心に聴く参加者)



### 下仁井田地区の復興が始まりました

いわき農林事務所では、今年度から平成27年度までの計画で、東日本大震災による津波で被災した地域の復興を図るため、「下仁井田地区」(四倉町下仁井田 受益面積40.2ha)、「錦・関田地区」(錦町、勿来町関田・四沢 受益面積57.8ha)、「夏井地区」(平下大越・藤間・下高久 受益面積154.7ha)の3カ所で、農地を大区画化し、効率的な営農と農地利用の集約を図る「復興基盤総合整備事業」を進めています。

そのトップを切って、1月30日(木)に「下仁井田地区」(受益面積40ha、事業費8億4,700万円)の安全祈願祭と起工式が同地内で行われました。当日は、マスコミ各社も取材に訪れ、その様子がニュース番組で放送されました。その中では「地域全体の協力があって、この日を迎えることができました」と感謝の言葉を述べる下仁井田地区ほ場整備組合の鈴木彦三組合長の姿が映し出されました。



下仁井田地区は、明治時代に整備された農地を大切に受け継ぎ、震災の後もがれきの除去や除塩をいち早く行って、平成23年もほぼ全域で作付けするなど不断の努力を続けてきました。しかしながら、大型の農業機械を導入して作業の効率化を図ろうとした時に、現在の10a区画ではどうしても限界がありました。ほ場整備実施へ向けた取り組みは、過去にもありましたが、震災後、地域の高齢化も踏まえ「これが最後のチャンスだ」との声とともに再びその機運が高まり、ついに着工の日を迎えました。

「下仁井田地区」の着工によりいわき市の「農地再生」は大きな一歩を踏み出しました。「錦・関田地区」、「夏井地区」でも間もなく着工の予定となっており、今後はますます復興へ向けた動きが加速していくことと思います。次代へつなく新たな農地が一日も早く完成するよう事業に取り組んでいきます。



(インタビューを受ける鈴木組合長)



(鍬入れをする来賓の方々)



## 市内小学生親子が「チョコベジ」体験

2月2日(日)、JAいわき市新鮮やさい館谷川瀬店で、『いわき野菜de「チョコベジ」』(主催:JAいわき市 後援:いわき農林事務所、いわき市見せる課)が開催されました。

「チョコベジ」とは、野菜にチョコレートソースを付けて食べる新しい食べ方で、いわき市産の野菜を使った「チョコベジ」を体験しました。

定員は、市内の小学生親子10組20人でしたが、13組37名の参加となり、大盛況となりました。

野菜ソムリエの木下麻美さんから、当日使用した野菜(だいこん、にんじん、ミニトマト、とっくりいも、春菊)のマメ知識を話していただいた後、親子で野菜を切る体験をしながらチョコレートソースづくりに取り組みました。

子供たちは、「春菊が食べられた」、「とっくりいもっておいしい!」など、保護者の方からも、「野菜を楽しく、おいしく、気軽に食べられる」と好評でした。

参加者の中には、帰りに直売所に寄っていわき市産の野菜を買い求める光景も見られ、親子で直売所を訪れることが増えるよい機会となりました。

若い世代のいわき市産農産物の消費拡大につながることを期待して、今後も旬の野菜を使って継続的に開催いたします。



(チョコレートソース作りをする参加者)



(野菜をおいしく食べられました!)



## 作業現場の安全性を点検 工事現場安全パトロール

2月3日(月)、いわき農林事務所管内建設工事安全推進協議会主催による工事現場安全パトロールが実施されました。参加者は、いわき労働基準監督署、県関係機関、建設会社等の関係者の計43名でした。会長であるいわき農林事務所佐藤所長の出発式の挨拶の後、参加者は、2班に分かれそれぞれ3つの現場のパトロールを行い、終了後、現場ごとの指摘事項などをとりまとめ、発表しました。それを受けて労働基準監督署の齋藤次長と空閑(くが)安全衛生課長から講評をいただき、散会となりました。

特に、講評の中には、「風がほとんど当たらない場所に設置してある作業員休憩所の吹き流しで、作業箇所風の強弱による作業判断を行って良いのか」、「現場小屋入口の段差や法頭のプラスチック杭などのつまずき防止対策は十分か」、「通路近くにアンカーピンなどのとがったものを置かないなどのつまずいた場合の安全確保対策は十分か」、「クレーン仕様のバックホウを使用しているにもかかわらずそのモードを適切にしないと思わぬ事故に繋がる」、など参考となるものが多くありました。



(安全掲示板を確認する参加者)



## 漁業への理解を深める 県漁青連リーダー研修会

県漁業協同組合青壮年部連絡協議会リーダー研修会は、毎年、県内の若い漁業者を対象に、漁業に関わる制度や水産試験場の研究成果などについて理解を深める目的で実施されてきました。

震災後は、総会時に同時開催するなど単独開催を見送ってききましたが、今年度からは研修会単独の開催を再開し、内容も充実したものとなりました。

今年度の研修は、2月7日(金)に以下の項目で行われ、予定されていた2時間では時間が足りないほど充実した内容となりました。

- 1 内閣府現地事務所や水産庁による原発の汚染水対策や風評対策等の説明
- 2 県水産試験場による魚介類への放射能の影響や震災後の水産資源の状況など3課題
- 3 年6,000万件のアクセスがある大変有名なウェブページ「ぼうずコンニャクの市場魚貝類図鑑」を運営している「ぼうずコンニャク」氏からの応援メッセージ

汚染水や風評対策については、質問も相次ぎ、関心の高さを感じました。また、ぼうずコンニャク氏からは、「数値で細かく説明されても理解を得るのは難しい。端的に福島の水産物の美味しさや安全性をアピールした方が消費者は理解しやすい」などのアドバイスを頂き、大変有意義な研修会となりました。



(72名と大変多くの参加となりました)



(水産試験場による研究成果説明)



## 〈コラム〉



### 食品表示のマメ知識

前号の「生鮮食品」に続き、第2回目は「加工食品」です。

JAS法の加工食品品質表示基準では、容器・包装後、一般消費者に販売される加工食品には、名称、原材料名（食品添加物を含む。）、内容量、消費期限又は賞味期限、保存方法、製造業者等の氏名又は名称及び製造所所在地の表示が義務付けられています。更に、国内製造した一部品目では「原料原産地名」を、輸入食品の場合は「原産国名」をそれぞれ追加表示する必要があります。

これら表示事項のうち、「原材料名」については、原則として使用した全ての原材料を記載すること、表示方法は原材料と食品添加物に区別し、原材料に占める重量割合の多い順に記載することとされています。

また、「原料原産地名」については、加工度の低い22食品群と個別の品質表示基準で定められた農産物漬物等4品目が表示義務対象となっており、表示方法としては、主な原材料が国産品の場合は「国産」（都道府県名等も可）、輸入品の場合は「原産国名」を記載することとされています。

加工食品を取り扱う事業者には、「原材料名」、「原料原産地名」、「原産国名」の記載に際し、仕入伝票等記載の原材料の「名称」や「産地」をよく確認のうえ、消費者に誤認を与えないよう適正に表示することが求められます。

その他、食品添加物、アレルギー物質及び遺伝子組換えの表示事項については「食品衛生法」において、栄養表示に関する表示事項については「健康増進法」において、それぞれ詳しく規定されています。

加工食品の表示に関する不明な点やラベル作成の相談は、いわき農林事務所企画部(0246-24-6197)で受け付けています。



## 〈「新生運動」構成員からのお知らせ〉

### ～磐城林業協同組合～

#### 「緑の雇用」現場技能者育成対策事業の現状について

磐城林業協同組合では、「緑の雇用現場技能者育成対策事業」のとりまとめ業務を受託しております。この事業は、林業への新規就業者の確保・育成・キャリアアップを目的とした事業で、林業に必要な資格等に加え、基本的な知識・技術等の取得のため集合研修とOJT研修を組み合わせた3年間の研修を行うものです。

平成25年度当組合の管轄では、18事業体に新規就職した計38名の研修生（1年目～3年目）に対して研修を実施しています。この事業により、林業従事者の減少・高齢化の問題が少しずつ改善され、若い担い手が増えつつあります。しかし震災以降は、様々な要因によりハローワークで募集をしても応募がほとんどないような状況が続いており、人材の確保が大きな課題となっています。

そのような中、5月10日に「WOOD JOB」という映画が公開されます。この映画は、都会育ちの少年がひょんなことから山で働くことになり……という内容です。この映画を見て、山で働いてみたいという人が少しでも増えることを期待しています。

詳細は、「緑の雇用」総合ウェブサイト <https://www.ringyou.net/>



（玉切り研修中）

## 食彩ふくしま地産地消推進店のメニューの紹介

地産地消推進日（3月は8日（土））に合わせ、いわき農林事務所に情報提供のあった食彩ふくしま地産地消推進店のメニューを紹介しますので、ぜひご賞味ください。  
なお、内容は変更される場合がありますのでご了承ください。  
また、営業日（メニューの実施日）については、事前にご確認ください。

いわき食彩館株式会社 スカイストア（平字一丁目）

推進日を含む毎日のメニュー

地産地消メニュー：日替わり（注文）弁当、惣菜等

説明：いわき、福島県産の安心・安全な食材（3月は菜花、ホウレンソウ、レンコン、長ネギ等）をふんだんに使用しています。

## いわき農林事務所からのお知らせ

ふくしまの最新情報を「ふくしま 新発売。」に掲載していますのでどうぞご利用ください。

<http://www.new-fukushima.jp/index.html>

- 1 「がんばろう ふくしま応援店！」一覧
- 2 イベント情報
- 3 農林水産物モニタリング情報

(1)モニタリング情報検索

(2)出荷制限等一覧表

「東日本大震災」

及び「原発事故」からの  
復興のために！



皆様からのご意見・情報をお待ちしております。

福島県いわき農林事務所 企画部 地域農林企画課

〒970-8026 福島県いわき市平字梅本15番地

（県いわき合同庁舎 3階）

T E L (0246)24-6152 F A X (0246)24-6196

U R L <http://www.pref.fukushima.jp/norin-iwaki/>

いわき農林水産ニュース

